

## 緊張と成長

中間 拓也

「始めの言葉」これは、僕が五年生のときの六年生を送る会で、進行係としての最初の言葉だ。この言葉を言うまで、心臓が爆発しそうだった。

全校のみんなだけでなく、地域の方々が大勢いる前で、進行係をするのは初めてだった。それに、失敗をすれば卒業していく六年生が心配するのではないかと思うと、余計にプレッシャーがかかった。

だから、練習を繰り返し相手の言葉に応じた臨機応変な対応を考え、時間をかけて準備した。慣れないことなので、とても苦勞した。今では大切な経験だったと思う。

この経験がきっかけとなって、僕は人前で話をするのが恥ずかしくなくなった。それどころか、全校のみんなをまとめるという「やりがい」も感じるようになった。

それから、自分から積極的にいろいろな係を引き受けるようにした。何かの係を引き受ければ、当然、それなりの苦勞がある。でも、なぜか僕はその苦勞をいやとは思わなくなった。何だか、自分のためだけではなく、みんなのためにもなるような気がした。

いま、ふり返るとこれは僕にとっての大きな成長だったと思う。何もしないで、誰かに頼ったり、ただ楽しいことだけをしていたりした以前の「自分」を卒業し、



これからも自分の成長のために、自分から苦勞に立ち向かっていきたい。今は、どんな苦勞にも勝てる自信があるから。